小　児　科

学童期の患児の生活指導

発表者　曾根原　幸　子
小児科一同

I　はじめに

学童期にある小児の看護で他にはみられない問題点として、勉強や友人との交流に対しての配慮があげられます。学童にとって学校生活から離れることによる障害は大きく、まして長期になればなる程、容易に学校へ戻ることがむずかしくなってしまいます。入院のままで小学校へ入学した子クラスがえの為に友人との間も希薄になりつつある子、進級できたものの前学年の半分もわからない子など、一人一人こうした幾多の問題をかかえながら入院生活を送っています。今まで忙しい業務の中にあって問題を感じながら患児の生活時間、勉強について具体的な計画をたてたり、継続的に指導援助することのできなかった点を反省し、四月というよい時期にあって、また、他の病院では学級制度ができたということもあり考えさせられました。細かい学習指導は私たちにはできませんが、学校の事、友人の事を忘れないようにすることや、少しでも知識欲を刺激し、学びへの自主性を育てることに力を入れてやってみようと始めました。もちろんこれから継続させていくことが重要なことですが、この短期間でまとめたものを発表したいと思います。

II　症例紹介

対象となる患児

1. 学童期にある患児
2. 看護婦の判断による学習可能な者もしくは医師の許可のある者

（表1）

	性別	年令	学　年	入院年月日	病　　名	住　所
A	♂	6	小1	S49. 4	白血病	市　内
B	♀	6	1	S49. 2~5	アレルギー性亜敗血症	下伊那郡
C	♀	8	3	S49. 3	後腹膜腫瘍	市　内
D	♀	8	3	S49. 4	腎盂腎炎	市　内
E	♀	9	4	S48. 10	紫斑病性腎炎	市　内
F	♂	9	4	S49. 4	肥満症	下伊那郡
G	♂	10	5	S49. 5	不明の発熱の精査	市　内
H	♂	13	最終学年5	S47. 5	悪性胸腺腫の術後	飯田市
I	♀	13	最終学年6	S47. 11	重症筋無力症	上田市
J	♂	14	中3	S49. 4~5	糖尿病	丸子町
K	♀	12	中1	S49. 4	細網内皮症	市　内

一急性期を脱して安定した時期にある子です。

Ⅲ　看護計画及び実施

（目標）

学習を通して学ぶ自主性を育て、学校への復帰を援助するとともに入院生活をけじめあるものとする。

（問題点とその対策）

1.　子どもの生活時間がバラバラでけじめがない。

対策

a　一日の生活時間表を作り各病室へはりわかりやすくする。

b　毎日の生活実態を調べる。

2.　自主的に勉強する子がほとんどいない

対策

a　勉強時間を１１時から１１時３０分と決める。

b　指導する人は一号室の受け持ちがあたる。

c　勉強する場所をみんなでいっしょにできるよう一ケ所に決める。

3.　学校との結びつきが疎縁になりがちである。

対策

学校の担任教師へ連絡をとり、病状を知らせ、クラスの状況及び進路について知らせていただく。

（実施及び評価）

<問題点１>

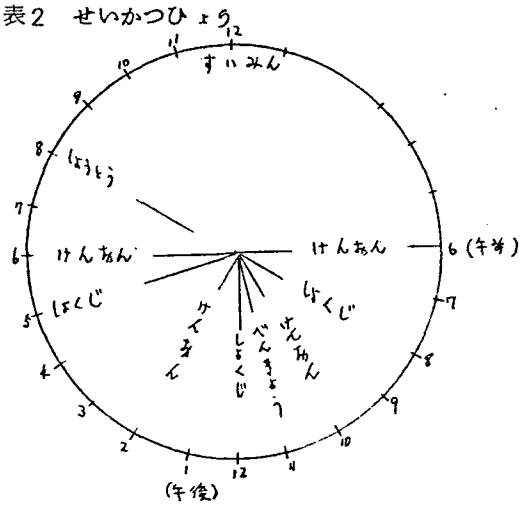
対策ａについて

子どもたちが一日の生活時間を明確にすることができ、入院時のオリエンテーションで子どもや家族に説明しやすくなった。また、子どもも表をみながらよくわかると喜んでいた。

対策ｂについて

本当にダラダラしているのかという疑問をもち、子どもたちの生活実態をつかもうと行なうことにした。午前９時から午後４時までを１時間毎に区切り、６段階に分けて記号をもって記入した。例えば、勉強をＡ、遊びをＢなどである。これを２週間行なった。が、結果としては、ぶらぶらしている時間が多く、遊びというのでもなく、ボケッとしていたり、ウロウロしていたりする時間が多くあった。この調査からみて、勉強する時間は守られたが、その他の時間に自主的に勉強する子は少なかった。

表２　せいかつひょう



<問題点２>

対策ａについて

処置の時間、面会時間をのぞき、看護婦の比較的時間のとりやすい時を選び、子どもたちと相談のうえ決めた。勉強時間は守られ、１１時から１１時３０分という時間を選んだのはよく、昼食まで一時間をみたことは、３０分以上続けて勉強したいという子にはよかった。

対策bについて

忙しい時、勤務者の少ない時などみてあげることができませんでしたが、子どもたちは自主的にやっていたようです。しかし、忘れていたり、「みてくれないとやらない」という子もいてやはり指導してやる必要があった。

対策cについて

勉強時間の雰囲気をもつため、看護婦が指導しやすくするため一ケ所としたが、部屋がないということや子どもたちの希望で各自のベット上で行なうことになった。一号室、二号室と分かれたのは、指導する側にとってはたいへんだったが、患児一人一人が独自の時間をもつことができよかった。

＜問題点3＞

対策について

前述の症例だけでなく、急性期にある学童も対象として担任教師に手紙（表3を参照して下さい）を出したが、研究期間が短かかったために十分な結果が得られず、前述の症例のAは連絡により面会にいらして下さり、C・E・Fは連絡以前にクラス中の友人の手紙や千羽鶴によって交流をもって下さり、病院と学校との結びつきを保つためには重要であると思われました。

表3

長期入院患者への面会（通信）のお願い

先生

前略

入院中の患者にとって、病気の治療に専念することはもちろんですが、心身ともに成長途上にある小児にとり、入院中も学習していく姿勢をもち、より規則正しい生活を送り退院後少しでもすみやかに学校生活にもどれるように働きかけていくことが大切と思われます。そのためにも是非、学校との連絡を密なものとしていきたいと思います。

ますます御多忙のことと存じますが、当科入院中の　　さんの近況をお知らせするとともに入院生活も長期になりました患児への面会（通信）をお願いいたします。

　　さんの入院生活の状況

よろしくお願いいたします。

信大病院小児科

Ⅳ　考　察

成人看護にあって看護の目標ともなるべき社会復帰ということが、小児にとっても大きな問題でなくてはなりません。最も成長の著しい学童期において入院したがためにその日々を無意味に過させてはならないという願いをもちつつあたってきました。

年令差のある大部屋でつきそいもついているところでは周りにじゃまされて一人で何かを行なうという時間をもつことがほとんど不可能でした。しかし、30分でも一人静かに読書する時間をもつことができると喜んでいた中学生もいました。また逆に一人では何をしてよいのかわからず、みてくれなくてはいやだという子もいました。勉強時間とはいうものの国語、算数といったものだけが学びの対象ではなく、何かを学びとり創作し、考えていくこと、つまり、その活動や経験が人間の成長発達をもたらすということはいうまでもありません。その意味においてこうした時間をもうけることが検温の時間と同様に小児病棟には必要であるということを改めて考えさせられ、結果としてよかったと思うと同時に、一歩進んだ、〃小児看護とは？〃という疑問にぶつかり、私たちが行なっていかねばならない働きの大きさを思わせられています。また寝て食べて一日の活動のすべ

てを同じベット上で行なう以上、時間の区切りを理解させることは無理があり、みんなでそろって行なうことのできる場所の必要性を感じ、今この場所を確保することのできないことを残念に思っています。一つの計画された事柄を実行するには不変であってはならないはずですが、いつどのように変るかわからない病棟内の事情で、「ちょっと待って、もう少ししたらみてあげるから」などということもしばしばありましたが、１１時から勉強時間と決めてからしばらくして、〃サアー11時だ、勉強だ〃という子どもの声を耳にした時はガラス越しに子どもたちの姿をみつつすくわれる思いでした。

この短期間に行なわれたことが、これでおしまいではなく、むしろこれから行なっていくことが、私たちの大きな課題となりました。忙しいという言葉に負けることなく、子どもたちの明日という時に希望をもちつつ、よりよい小児看護をめざしてがんばりたいと思っています。